

今回のみいよく通信では、三鷹市の事例が紹介された研修会の内容をお伝えします。

○「河内地区地域連携教員研修兼地域コーディネーター研修」の報告

日 時：5月22日(月)14:00～16:30
 場 所：栃木県総合教育センター大講義室
 参加者数：148名(うち、宇都宮市教員84名、宇都宮市推進員33名)
 講 話：学校と地域が一体となって子どもたちを育むことは
 ～子どもたちの未来のために私たちにできること～
 講 師：CSマイスター ^{よつやなぎ} 四柳 ^{ちかこ} 千夏子 氏
 (ほか、七小あそびバナナ(三鷹市立七小学校の放課後子ども教室)代表 ほか)



四柳先生

○ 子どもたちの「しあわせ」について

- ・「楽しく通える学校」は、子どもたちの幸せにつながります。
- ・研修では、ふせんに「楽しく通える学校」の条件などを書いて周囲の参加者と話す、簡単なワークをしました。
- ・似たような意見でも、話してみると、それぞれ思っていることは異なるということが体感できるかと思えます。

例)「友達がいる」→ Aさん:「たくさん友達がいる」
 Bさん:「仲良しの友達がいる」

友達がいる

勉強が楽しい

明日が待ち遠しい

○ 子どもたちにとって「いい学校」をつくるには？

- ・「いい学校」をつくるためには、学校の先生だけではなく、保護者や地域住民も、当事者として関わるのが大切です。
- ・今の子どもたちが成長し、次の地域の人材になります。子どもたちの未来を考えることは、地域の未来を考えることになります。「思い」は皆持っています。

子どもたちが「通いたい」、保護者が「通わせたい」と思える「いい学校」をみんなでつくりましょう！

○ 対話を大切に、対話のプロセスを大切に

- ・みんなで話し合う『熟議』が大事
- ・三鷹市では、コミュニティ・スクール(「学校運営協議会」制度)を導入しており、その会議の場で熟議しています。



個人のアイデア・意見

数人単位で話し合い・聴き合い、そのグループの意見に

全体で目標やビジョンの共有、それぞれの立場での具体化な取組に

○大切なのは、「何のためにするのか？」を共有すること

- ・「学校がどのような子どもたちを育てるか」、「どのような教育をするか」を最上位目標として、それを実現していくための手段の一つが話し合い(目的ではありません。)
- ・ 目標・ビジョンや実践・成功体験, そのほか様々な情報を共有
- ・ **何のために**学校と地域が連携するのかを, 共有するための一歩として「熟議」を行う。
- ・ 地域が学校の目標を理解し, 共有し, お互いに力を出し合う対等なパートナーとなりましょう。
- ・ 子どもたちは, 将来の地域の一員です。だから子どもたちのための私たちの活動は, 地域にとっても良いことです！

○ 子どもたちが通いたい学校のために、学校と地域に「今、あるもの」

学校

- ・ ビジョンを示す
- ・ 情報開示(共有)
- ・ 校長のマネジメント力
- ・ 教育の専門家=先生



地域

- ・ 当事者意識
- ・ 辛口の友人
- ・ よき応援団
- ・ ひと/もの/こと
- ・ 子どもたちの「心の安定」「自己有用感」「自己肯定感」のための, 温かいまなざし
- ・ 勉強を教えるスキルはないけれど, 子どもを評価しない, ナナメの関係
- ・ あいさつ, 見守る, 励ます, 手本になる, 声をかける, 寄り添う, ほめる, 背中を見せる…



⇒ 学校のニーズ と 地域の強み・魅力 とのマッチングがカギ！

○ コーディネーター（地域学校協働活動推進員）の役割



- ・ 学校の「やりたい！」を叶える
- ・ 孤軍な存在である先生の立場を知る
- ・ 地域の「関わりたい」をつなげる
- ・ つながりを創る 仲間をつくる 学校や地域にアンテナを 常にアップデートを

○ 活動のルールづくり

<キホンのルール>

- ・ 守秘義務:活動で見聞きしたことは口外しない
- ・ ボランティアの役割:子どもの学びに手出ししすぎない
- ・ 人権:どの子にも公平・平等な対応を
- ・ 個人情報保護:写真撮影やSNSの発信には注意を

<熟議のルール>

- ・ 準備が大事。話し合いのゴールは明確に
- ・ ふせんを使うときは, 1枚に1つのことを書く。(見やすい・分類しやすい)
- ・ 1人が長くしゃべりすぎない。全員がまんべんなく話せるよう, 全員で配慮
- ・ 人が話しているときはよく聴く。
- ・ 人の意見を批判しない。ポイントがずれていても否定しない。安心して意見を言える場づくりを
- ・ 当事者として話し合いに参加してもらうためには, ポジティブな気持ちで考えましょう。

○ **グループワーク「子どもたちの未来をみんなで語ろう！」**

- ◎ ゴールは明確に：できていること、強み、課題、今後必要な取組などを確認する。
- ◎ 最初に、【グループ】で自己紹介、役割分担 最後に、【全体】で共有しましょう。

【個人】	▶【グループ】	▶【個人】	▶【グループ】
やっている活動をふせんに書く。	書いたふせんを出しながら、お互いを知る。	「地域の子どもたちが持っている力、身に着けてほしい力」をふせんに書く。	やっている活動やほかにもできそうなことをつなげましょう。

○ **三鷹市での学校と地域の「熟議」によって、実現している活動の例**

放課後の補習



地域の避難訓練



授業について先生と地域が話し合う



ミシンのサポート



九九の暗記サポート



○ **感想・質疑応答**

感想：今日のグループワークで話し合う中で、雰囲気などの自分の地域の良さを、伝承文化として捉え、どのように伝えていくかを考えることが大切だと感じました。

質問：学校が地域やPTAと連携していく上では、どのようなことに留意すれば良いのでしょうか。

回答：20年前と比べて、今の保護者の在り方は変わっています。コロナ禍を挟んで、保護者は学校への帰属意識がなくなったように思います。こういった新しい価値観を踏まえると、団体としてのPTAと、保護者個々人は、切り分けて考えてみると良いかもしれません。学校運営の当事者である保護者をどのように巻き込んでいくか、保護者と一緒に考えてみては。

質問：ほかの教員から「地域に支援してほしいことを発信したら、『学校に^{ちから}力がない』と思われるのでは」と言われたことがあります。どのように説明すれば良いのでしょうか。

回答：おそらくその先生は、今までの経験から「全部自分でやるのが力だ」と感じているのでは。しかし、先生が疲れてしまっただけでは本末転倒です。先生方が、子どもたちの前では生き生きとしていることが、子どもたちの幸せにつながると思います。地域に「助けて」と言えるのが力です。地域は頼られたら嬉しいです。

先生の熱い思いと濃厚な内容を学べる研修会でした。参加した方からは「今までの取組がまんざらでもなく、嬉しくなった」「目的を設定・共有する大切さを知ったので、学校と地域で話し合いたい」との声がありました。今後も、皆様の活動を応援するような情報をお届けしてまいりますので、よろしくお願いいたします。

お問い合わせ・通信のご感想やご意見など：宇都宮市教育委員会事務局
 生涯学習課 電話 028-632-2679 メール u4606@city.utsunomiya.tochigi.jp
 学校教育課 電話 028-632-2728 メール u4602@city.utsunomiya.tochigi.jp